



志木三小だより

学校教育目標

賢く 優しく 逞しく

志木市立志木第三小学校
平成29年度 第11号
平成30年 2月1日
志木市柏町3丁目2番1号
TEL 048 - 471 - 1062
児童数2月1日現在595名



逞しい子供の育成

校長 可知 良之

今年度、学校教育目標を「逞しく」と変えました。本校児童が逞しい子供に育てほしいと願ってのことです。最近の子供たちを見ていると残念ながら逞しいなと感じる子がとても少なくなりました。年配の方なら覚えておられると思いますが1970年代後半「腕白でもいい 逞しく育てほしい」というコマーシャルが流行しました。当時も逞しさというのは、子供として好ましい姿の一つだった気がします。逞しさという言葉には、単に体が大きいとか、強そうとか活発であるといったことだけでなく、もっと別な力強さのようなものを感じます。

テレビニ 吸イツイテ遊バズ
朝カラ アクビヲシ
集会ガアレバ 貧血ヲオコシ
アラユルコトヲ
自分ノタメダケ考エテカエリミズ

思わず苦笑してしまいたくなりましたが、逞しさという点では、大変深刻な問題でした。さて、あれから18年経った今、子供たちの体力は少しずつ向上しているといえます。ただ、実感として逞しくなったかと言えば、まだまだという気がします。同じ「たいりよく」でも耐える力の耐力が、逞しさにはもっと必要です。少々のことではへこたれたりしない我慢強さだったり、外敵となる寒さや暑さに負けない丈夫さだったり、嫌なことや困難なことにも挑戦していく心の強さだったり、これら全てをまとめた有り様こそ、逞しさではないかと思っています。このような子供を育てていきたい、そのような気持ちでいっぱいです。

子どもの体力年々低下

逆上がり 小6男女9割→7割

このような見出しが新聞に付いたのは、2004年のことでした。その数年前の2000年10月、盛岡の小児科医、三浦義孝さんが小児科学会で「雨ニモアテズ」という衝撃的な詩を披露しました。盛岡は宮沢賢治の故郷です。賢治が作った有名な詩「雨ニモ負ケズ」のパロディですが、当時の子供たちの現状を見事に表現しています。

冒頭はこうです。

雨モモアテズ 風ニモアテズ
雪ニモ 夏ノ暑サニモアテズ
ブヨブヨノ体ニ タクサン着コミ
意欲モナク 体力モナク
イツモブツブツ 不満ヲイツテイル
毎日 塾ニ追ワレ

雨ニモアテズの最後の一節はこう締めくくられています。

「コンナ現代ツ子ニ 誰ガシタ」
紛れもなく、私たち大人の責任ではないでしょうか。

参考：産経抄2000年10月31日 産経新聞朝刊
2004年 1月30日 朝日新聞朝刊

